



特集展示

# 移りゆく 上野の風景

2025 2.22 sat ▶ 26 wed 東京都美術館 2階第4公募展示室



 江戸東京博物館

編集・発行：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館  
デザイン：有限会社マツダデザイン 印刷：株式会社ライブアートボックス  
令和7年(2025)2月22日発行

## ごあいさつ

上野を代表する上野公園一帯は、武蔵野台地の端に位置することから「上野の山」とも呼ばれています。江戸時代には寛永寺の寺域が広がり、数多くの子院が立ち並ぶ徳川将軍家の宗教的な聖域でした。「上野の山」に対し、麓の低地に位置する上野山下や下谷広小路(上野広小路)は、寛永寺の門前町として繁栄しました。度重なる大火を契機に、延焼を防ぐための火除地がそれぞれに設けられると、下谷広小路は町屋、上野山下には商店や見世物小屋が軒を連ねる江戸有数の盛り場となりました。

その後、慶応4年(1868)の上野戦争によって寛永寺の大部分が焼失したことで、上野は明治政府の近代化政策を象徴する場所へと転換します。寛永寺の跡地に上野公園が開園すると、内国勸業博覧会をはじめとするさまざまな博覧会や展覧会の会場として、日本の産業や文化を発信してきました。また、鉄道敷設と上野駅の開業によって上野は交通の要所としても位置づけられ、上野山下や下谷広小路は人びとが集まる有数の繁華街となりました。

本展では上野の歴史や風景の変遷について、錦絵や絵葉書などから紹介します。時代の変化とともに移り変わる上野をお楽しみください。

公益財団法人東京都歴史文化財団  
東京都江戸東京博物館

## 展示構成

1. 江戸東京における上野
2. 上野の山
3. 不忍池
4. 下谷広小路
5. 上野山下



### 凡例

- ・本書は公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館の主催により、令和7年(2025)2月22日(土)から2月26日(水)まで東京都美術館で開催する館外展示「出張!江戸東京博物館」のうち、2階第4公衆展示室の特集展示「移りゆく上野の風景」に関するリーフレットである。
- ・展覧会において展示した資料のうち、代表的な作品の図版と解説を掲載した。
- ・資料名は必ずしも東京都江戸東京博物館の資料名と同一ではなく、本展において便宜的に付した名称もある。
- ・展示資料ならびに掲載資料は、すべて東京都江戸東京博物館所蔵である。
- ・本展は東京都江戸東京博物館学芸員・杉山哲司、朴美姫、平戸杜飛が担当した。
- ・本書は杉山哲司が執筆し、杉山哲司、朴美姫、平戸杜飛が編集した。
- ・本書に掲載した作品の中に、著作権者の方と連絡がとれないものがあつた。お気づきの場合、ご一報いただければ幸いです。

### 主要参考文献

吉見俊哉『博覧会の政治学 まなごしの近代』中央公論社 1992 / 『台東区史』台東区 2002 / 小林信也『江戸の民衆世界と近代化』山川出版社 2002 / 小野良平『公園の誕生』吉川弘文館 2003 / 國雄行『博覧会の時代—明治政府の博覧会政策—』岩田書院 2005 / 浦井正明『上野寛永寺 将軍家の葬儀』吉川弘文館 2007 / 浦井正明『上野公園へ行こう—歴史&アート探検』岩波書店 2015 / 高橋千晶、前川志織編『博覧会絵はがきとその時代』青弓社 2016 / 池享他編『みる・よむ・あるく 東京の歴史5 地帯編2 中央区・台東区・墨田区・江東区』吉川弘文館 2018 / 鈴木健一『不忍池ものがたり—江戸から東京へ』岩波書店 2018 / 田中裕二『企業と美術—近代日本の美術振興と芸術支援』法政大学出版局 2021

# 1. 江戸東京における上野

上野は上野忍ヶ岡遺跡群や新坂貝塚などから、古くより人類が生活していたことが確認されており、寛永2年(1625)に寛永寺が創建される前までは、村落が形成されていたようである。

上野という地名の由来は諸説あり、定説では現在のの上野公園一帯が丘陵で、台地の上が野原であったことから、その名が付けられたとされている。戦国時代に関東を治めていた北条氏が永禄2年(1559)に作成した「小田原衆所領役帳」のなかに、「江戸 上野」という記述があり、これが地名として「上野」と明確に確認できる最初のものである。

寛永寺が創建されると、上野一帯は寛永寺の門前町として栄えるが、明治時代以降は近代化を象徴する地域の一つとして、社会の変化とともに上野の街並みも移り変わる事となる。



えどめいしよいちらんすごろく  
江戸名所一覽双六  
歌川広重(二代)／画 万延元年(1860)6月

五街道の起点である日本橋を振り出し(スタート)と上がり(ゴール)に設定し、江戸の名所を巡りながら楽しむ双六。江戸を東上空から富士山の方向に眺めた鳥瞰図で、江戸を一望できるようになっている。

本図右側の中央付近が上野にあたる。寛永寺境内や下谷広小路など、当時の上野の景観を知ることができる。

上野



## 2. 上野の山

現在の**上野公園**一帯は、古くは忍ヶ岡と呼ばれていたが、武蔵野台地の端に位置することから、「上野の山」とも称された。江戸時代における上野は、不忍池を除いた「上野の山」を指したようである。

寛永2年(1625)に寛永寺が創建されるが、それ以前の「上野の山」には、藤堂高虎(津藩)・津軽信枚(弘前藩)・堀直寄(村上藩)の下屋敷、五條天神社や上野村があったと言われている。そして寛永寺の創建によって、「上野の山」は徳川将軍家の宗教的聖地となるが、現在と同じく桜の名所でもあった。寛永寺を開山した天海が吉野山から桜の木を移植したことにはじまり、寛文年間(1661~1673)には四代家綱の耳に入るほど評判となり、元禄年間(1688~1704)には江戸随一の花見の名所として人びとに愛された。

その後、慶応4年(1868)の上野戦争によって一帯が焼野原になるが、明治6年(1873)に上野公園が開園すると、引き続き桜の名所として多くの人々が訪れた。さらに、さまざまな博覧会や展覧会の開催場所となり、上野は日本の芸術文化を発信する地域となっていく。



えどめいじょのうちうえのず  
**江戸名所之内上野図**  
歌川芳盛/画 慶応4年(1868)5月

上野を中心にパノラマで描いた錦絵。画面上部には千住大橋や本所、江戸城の浅草橋門が記されており、上野から北東や東の範囲を対象としていることがわかる。また、右下には西洋式軍隊の新政府軍が確認でき、本図は名所絵をもとに上野戦争の要素を加えたものと考えられる。

## 寛永寺

徳川家康の神格化を主導した天海は、かねてより関東における天台宗の一大拠点を江戸に築こうと構想していた。元和8年(1622)、二代秀忠から上野の台地の半分を与えられると、天海は品川の御殿山にあった別殿を移築し、寛永2年(1625)に寛永寺の本坊(現・東京国立博物館敷地内)を建立したことで、その構想を実現した。

寛永寺創建にあたり、天海は天台宗総本山・比叡山延暦寺を模倣しようとした。すなわち、京都御所から見て比叡山が鬼門(北東)にあたるように、江戸城の鬼門となる上野の地を選んだのである。そして、寛永寺の山号を「東の比叡山」という意味から「東叡山」としたことから、天海の意味が垣間見える。

創建当初は、幕府の安泰と万民の平安を祈願する祈禱寺であったが、三代家光が自らの法要を寛永寺で執行するよう遺言し、その後四代家綱や五代綱吉が造営されたことで、寛永寺は徳川家の菩提寺としての役目を与えられた。そして、上野は徳川将軍家の宗教的聖地となっていく。しかし、幕末には戊辰戦争の舞台の一つとなり、寛永寺の伽藍の大半は灰燼に帰すこととなる。



うえのかんえいじとくがわけれいき  
**上野寛永寺徳川家霊域**  
とくがわいそみつ たいゆういん びょうそ たしょうぐんろくゑい びょう  
**徳川家光(大猷院)の廟 其他将軍祿類の廟**  
江戸時代末期

歴代将軍は基本的に増上寺と寛永寺のどちらかに埋葬され、寛永寺には四代家綱、五代綱吉、八代吉宗、十代家治、十一代家斉、十三代家定が祀られている。本資料は寛永寺境内の地図だが、文恭院(家斉)が記されていることから、天保12年(1841)以降に作成されたものである。